

伊勢崎市重要遺跡

上植木廃寺

所在地 伊勢崎市上植木本町・本関町

お問い合わせ

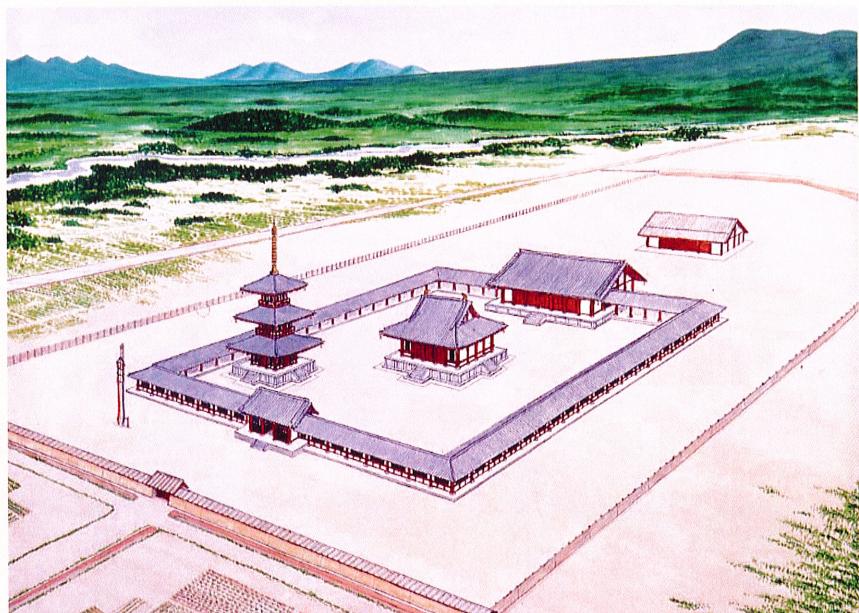
伊勢崎市教育委員会 文化財保護課

〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2

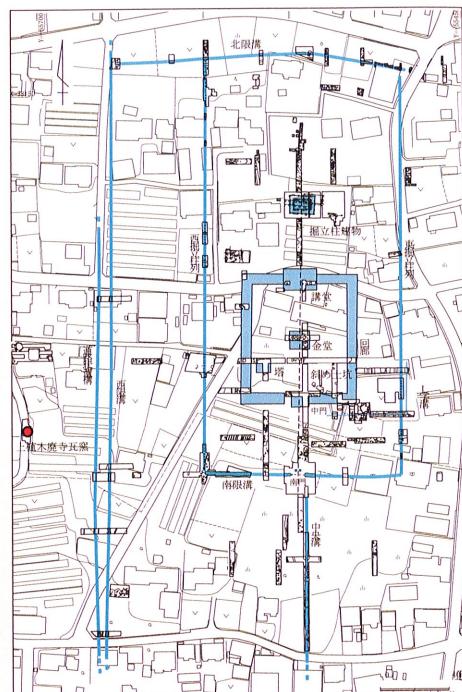
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673

E-mail:bunkazai@city.isesaki.lg.jp

佛教は今から1400年ほど前、日本に伝えられたと言われています。佛教の象徴とも言えるのが寺院ですが、日本ではじめて造られた寺院は崇峻元年（588）に造営がはじまった飛鳥寺です。この寺の造営を皮切りに都周辺では相次いで寺院が造られるようになります。これまで大型古墳を造っていた豪族たちは次第に古墳に代わるものとして寺院を建立するようになっていくのです。伊勢崎の地では、都から遅れること100年余り、7世紀後半になって上植木廃寺が創建されました。



伽藍想像図



遺跡全体図



金堂基壇



塔基壇

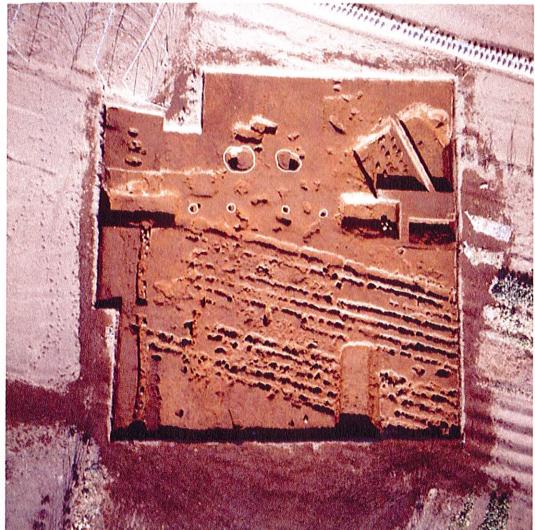


塔基壇断面

伽藍配置をとります。寺院地は東西112m、南北240mほどと南北に細長く、北・南限は溝、東・西限は掘立柱塀で区画されています。南限溝中央部には棟門構造の南門も検出されています。西限掘立柱列から西55mの地点には南北方向の溝、それに並行して道路状遺構も確認されており、さらにその西では創建期の瓦を焼いた窯跡もみつかっています。

瓦の分析から7世紀後半に創建されたことが判明しており、群馬県でも屈指の古代寺院です。

上植木廃寺は昭和57年から調査を実施し、伽藍配置や寺院の範囲など多くのことがわかつてきました。講堂、金堂、中門が一直線に並び、金堂の南西に塔を配置し、中門から発する回廊は講堂にとりつくという全国的にあまり例のない



南門



八角形倉庫（佐位郡正倉）



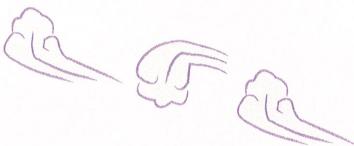
上植木廃寺瓦窯



瓦出土状況

仏教は朝鮮半島から伝わった異国の宗教・文化です。その寺院建築も白壁に朱塗りの柱、そして屋根には瓦を葺くなど、当時の人々からすれば、見たこともないようなきらびやかなものでした。律令国家が完成するにつれ、政治と仏教は深いかかわりを持つようになっていきます。その顕著な例が全国に国分寺・尼寺を置くという国分寺制度です。各地の古代寺院は国分寺を中心に展開していくことになります。

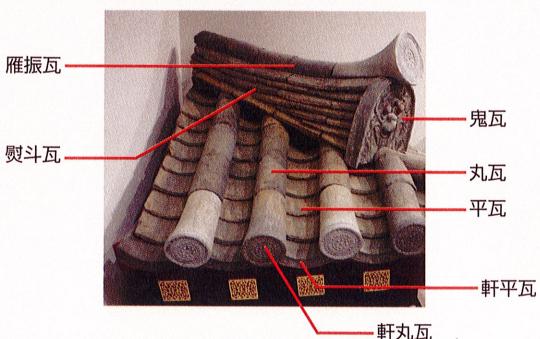
また、古代の役所（郡家）の周辺に寺院が置かれることも多く、仏教が地方統治の役割の一端をになっていたこともわかつてきました。



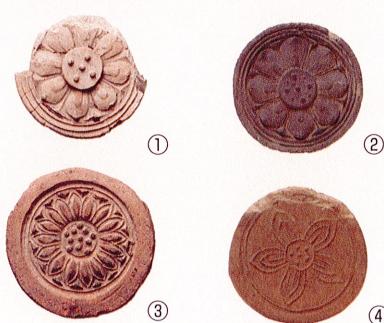
上植木廃寺の南には佐位郡の役所である郡家が置かれています。そこでは仏教とも関わりがある八角形の倉がみつかっています。

このように佐位郡は、仏教色の強い郡であったということができます。

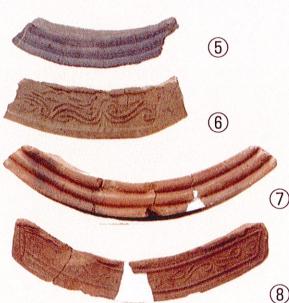
上植木廃寺の創建期の瓦は廃寺のすぐ脇に築かれた上植木廃寺瓦窯で焼成されています（下図①・⑤）。その後、窯場を勢多郡雷電山に移し、供給されています（下図②・⑦）。



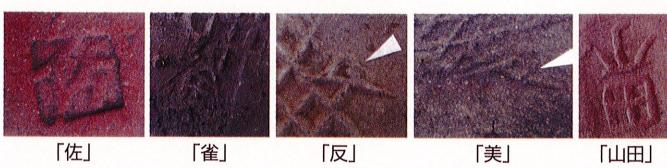
古代の屋根瓦の種類



軒丸瓦



軒平瓦



出土文字瓦

これらの文字瓦は佐位郡の郷名を表しており、上野国分寺からも出土します。国分寺造営に佐位郡が協力した証と考えられています。

屋根瓦にはさまざまな種類がありますが、軒丸瓦や軒平瓦の文様を調べることで、その造られた時期が推定できます。国分寺が造られたあと、上植木廃寺はもちろん上野国の寺院の瓦は国分寺式瓦（上図④・⑧）が主流になります。